



---

# 第7回 内痔核治療法研究会総会

---



## プログラム・抄録集

平成25年3月10日(日)

当番世話人 **松島 誠**

共 催

内痔核治療法研究会  
田辺三菱製薬株式会社

## 第7回 内痔核治療法研究会総会プログラム

主テーマ：「ALTA単独療法の適応の見極めと工夫～痔核の病態から考える～」

日時：平成25年3月10日(日) 9:30～15:00

場所：ホテルグランドパレス 2階「ダイヤモンドルーム」

1. 第7回内痔核治療法研究会総会 当番世話人挨拶 9:30～9:35

松島病院 大腸肛門病センター 松島 誠

2. 一般演題口演（発表6分、討論3分）

1) 一般演題口演 I 9:35～10:11

座長：大腸肛門病センター 高野病院 辻 順行

演題－1 エラストグラフィ（組織弾性イメージング超音波検査）による  
ALTA療法の検討 ..... 1

寺田病院 大腸肛門病センター 田中 良明 ほか

演題－2 昨年治療した痔核症例 ..... 2

誠心会 吉田病院 笹口 政利 ほか

演題－3 当院における痔核治療の現況 ..... 3

東神戸病院 外科 申 智宏 ほか

演題－4 兵庫県下におけるジオン（ALTA）治療の変遷 ..... 4

大澤病院 大澤 和弘

## エラストグラフィ(組織弾性イメージング超音波検査)による ALTA療法の検討

田中 良明<sup>1)</sup>、寺田 俊明<sup>1)</sup>、葛岡 健太郎<sup>1)</sup>、岩本 真帆<sup>1)</sup>、堀 孝吏<sup>1)</sup>  
山田 麻子<sup>2)</sup>、高村 寿雄<sup>3)</sup>

寺田病院 大腸肛門病センター<sup>1)</sup>、アイビー大腸肛門クリニック<sup>2)</sup>、東神戸病院<sup>3)</sup>

現在、ALTA四段階注射法の効果を判定するには主に痔核の症状（Goligher分類など）や直腸鏡検査所見などの変化によって検討されている。

今回、ALTA療法が硬化療法で痔核組織の硬化を生じさせる点に注目し、エラストグラフィ（組織弾性イメージング超音波検査）Real-time Tissue Elastographyを用いて、硬結の色調の変化を客観的に検討することで、ALTA療法の効果判定に有効かを検討した。

エラストグラフィとは乳腺の悪性変化を硬さによって診断するために開発され、組織の圧迫による歪みをリアルタイムに画像化し硬さの情報を色調によって確認できる検査法で、浸潤癌では硬さのため歪みが少なく青色に描出される。

使用した装置は日立メディコ社製HI VISION AVIUS EUB-8500、深触子はバイプレーンEUP-533（4～10MHz）で、ALTA単独療法症例10例のエラスト画像の①各段階注射時の描出 ②マッサージ直後の変化 ③術後の変化を記録検討した。

まだ症例数はわずかであるが、痔核の硬化退縮変化に対するスタンダードなエラスト画像について検討を重ねることが実際の注射手技の向上、治療効果の判定、および長期経過などALTA療法の確立の一助になるものと考ええる。